

漁況予報 いわし

第152号

2009年3～4月漁期
(2009年3月16発行)

＝ 予 報 ＝

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は1月が1トン、2月が282トン(速報値)で、前年同期(1月:3トン、2月:9トン)を上回りました。2月上旬に沖合水の流入が観察され、マイワシが短期的に大量に来遊したためです。2月としては1999年に次ぐ大漁で、特に西湖地区で多く漁獲されました。魚の大きさについては、年末までに見られていた体長16cm前後の中羽サイズに加えて、より小さい体長13cm台の小型魚が多く混じっていました。両者ともに明け1歳魚(2008年初春生まれ)と推定され、生息海域の違いにより成長に差が生じたものと考えられます。

佐島地区のまき網は、2月に1ヶ統が1トン程度を漁獲しただけで、まとまった漁獲はありませんでした。

2月の定置網の大漁により、マイワシ資源の回復を期待したいところですが、1～3月のしらす試験操業におけるマシラス(マイワシ仔魚)の採捕量は少なく、次の年級が続いていない状況にあり、マイワシ太平洋系群全体の資源水準も低いことから、今回の相模湾における漁獲増は一時的なものと考えられます。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は1月が226トン、2月が490トン(速報値)で、前年同期(1月:50トン、2月:101トン)を上回りました。当期の漁獲量としては、1990年以降で最高となりました。魚体は、体長9～11cmの小型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、1月は1ヶ統が2度ほど鮮魚として出荷し、2月に入ると徐々に漁獲量が増加し、餌イワシとして断続的に漁獲しました。

カタクチイワシの漁獲状況は、昨年の秋から低調で推移してきましたが、2月上旬に見られた沖合水の流入を機に一転して好漁で推移しています。カタクチイワシ太平洋系群全体の資源水準は依然として高いことから、海況などの条件が合えば今回のような好漁を引き起こすものと考えられます。

【しらす】

当センターは毎年、しらす船曳網漁業連絡協議会の協力により禁漁期間中に試験操業を行っています。過去2年間の調査ではしらすが多く採捕されましたが、今年は極めて少なく、魚種はウルメシラス(ウルメイワシ仔魚)が主体でした。このため、解禁直後の3月は低調で推移するものと考えられます。

また、例年3、4月に漁獲されるマシラス(マイワシ仔魚)も少ないものと思われ、ほとんど漁獲の対象とならないでしょう。

春しらす漁の主体となる、4月以降のカタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)の来遊量は、湾外で早い時期から産卵を始める大型のカタクチイワシの分布量によります。今期はこの大型成魚は低水準であるため、6月までの春漁全体の漁獲量は好漁であった前年の半分程度にとどまるものと考えられます。

ただし、昨年のようにしらすの来遊に好適な海況となった場合は予測以上に好漁となる可能性もあります。

まいわし

今漁期は、中羽(1歳魚、2008年級群)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、定置網を主体に約80トンと予測されます。

*縦軸: 主要定置網+まき網

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、約2000トンと予測されます。

*縦軸: 主要定置網+まき網

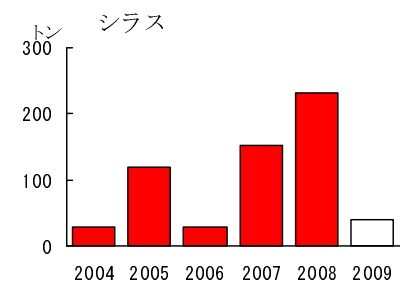
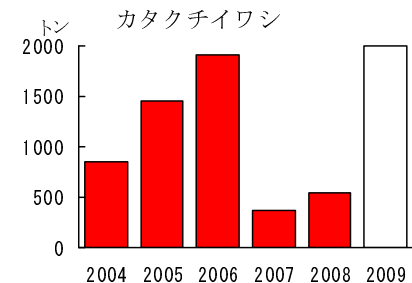
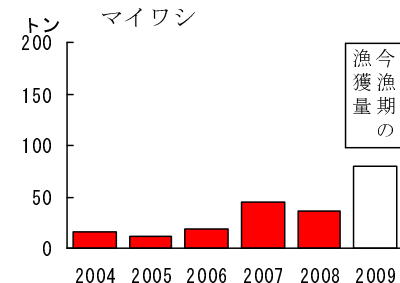
しらす

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

試験操業の結果から、本格的な漁が始まるのは4月以降になるでしょう。

今漁期の漁獲量は、しらすの親となるカタクチイワシの大型成魚資源量指数値から、約40トンと予測されます。

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313